

# 「全日本物流改善事例大会2010」 出場!!

～当社の物流改善が優秀事例に選出されました～



2010年4月22日、「全日本物流改善事例大会2010」（日本ロジスティクスシステム協会／物流技術管理士会共催）が東京大手町のサンケイプラザで開催されました。

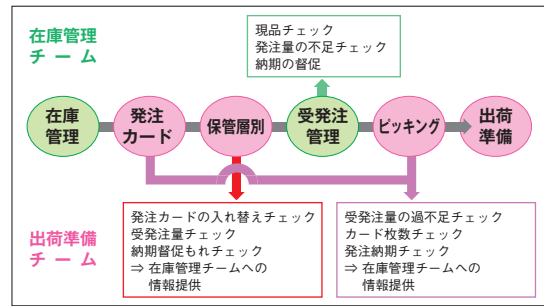
200人超の参加者を迎えて満席となった会場の中、全国から寄せられた応募事例より選出された優秀事例19社中の1社として、当社は「物流業務と在庫管理を統合管理する『しくみ』を使った在庫回転率の大幅改善」と題した物流業務改善の取り組みを報告させていただきました。

言うまでもなく、現在当社が進めているFTSビジネス（工具管理業務のアウトソーシング事業）におけるコア業務のひとつが物流管理です。今回、優秀事例に選出されたことを糧とし、さらに質の高いFTSビジネスとすべく今後も改善活動に積極的に取り組んでいきたいと決意を新たにしています。

## 7.1.3 改善実行

C-max

※在庫が見える道具作り（できるようになったこと）



世界中に息づく技術

# C-max

## 第53期 中間報告書

平成22年3月1日～平成22年8月31日

 富士精工株式会社



# 富士精工株式会社

(証券コード6142)

株主の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。ここに当社グループの第53期中間報告書をお届けいたします。

### 第53期中間期の概況

当中間期、当社グループの主要な取引先であります自動車産業界におきましては、新興国市場の拡大、環境対応車や小型車の伸長等にけん引される形で自動車生産、設備投資ともに回復の傾向を見せております。

しかしながら、特に日系自動車メーカーにおいては、いまだ根強い生産設備の過剰感、日本国内におけるスクラップインセンティブ終了後に予想される新車販売の減少、さらには強すぎる円高傾向等の不安材料が重なって、先行きの不透明感が払拭されず、依然として予断を許さない状況が続きました。

こうした経営環境のもと、当社グループといたしましては、「切削工具を中心とした新製品の拡販」「5Rビジネス(修理、再生、再研磨、転用・改造、省資源)の取り込み」「他社OEM製品の取り込み」「自動車部品生産ラインの集約・改善に対応する高付加価値製品(複合加工工具、高能率加工工具等)の提案」「中国地域等における工具類の一括受注(フルターンキー受注)の積極展開」などのテーマに取り組み、受注確保に努めてまいりました。

この結果、当中間期の売上高につきましては、67億3千7百万円(前年同期比66.4%増)となりました。

しかしながら利益面におきましては、「工場を中心とした原価低減の推進」「労務費の適正化」「各種コストのさらなる圧縮」等のスリム化策に努めましたものの、営業損失7千9百万円(前年同期は13億4千8百万円の営業損失)、経常利益7千7百万円(前年同期は12億5百万円の経常損失)、中間純損失8千9百万円(前年同期は13億2千7百万円の中間純損失)となりました。

### 中間配当の見送り

当社グループでは、安定した配当を継続的に行うことを重要な経営課題のひとつと考えており、利益の状況、将来の事業展開、配当性向などを総合的に勘案して、適切な利益配分を行うことを基本方針としております。

しかしながら中間配当につきましては、誠に遺憾ではございますが、厳しい結果となった業績や損益の状況に鑑み、無配とさせていただきます。

### 今後の課題

当社グループの主要な取引先であります自動車産業界においては、先述のとおり、先行きの不透明感が払拭されておらず、予断を許さない厳しい状況が今しばらく継続するものと思われ

ます。このように右肩上がりの拡大が見込めない経営環境にあって、当社グループの喫緊の課題とは、「受注の確保」「限られた受注の中でも一定の収益を維持できる体制づくり」と認識しており、これを実現するための営業活動の強化策や経営体質のスリム化策にグループ全社を挙げて取り組んでおります。

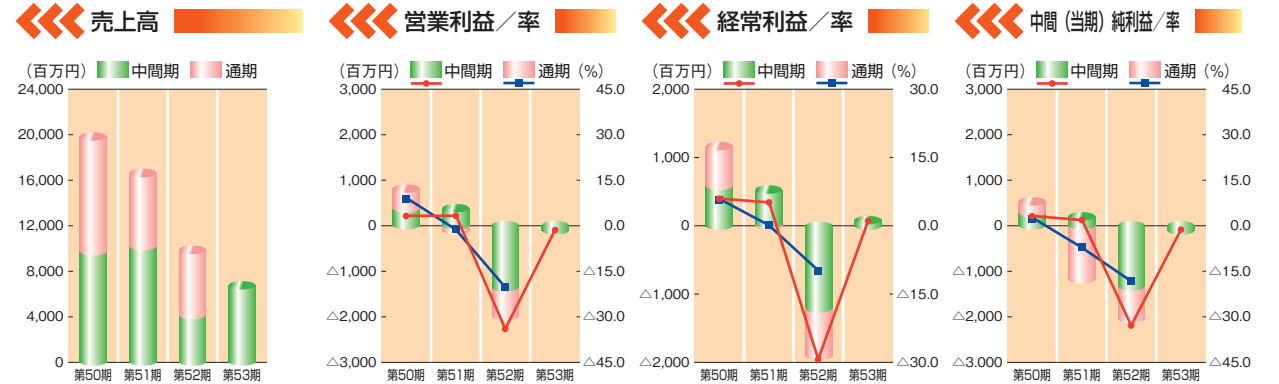
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

取締役社長 森 誠

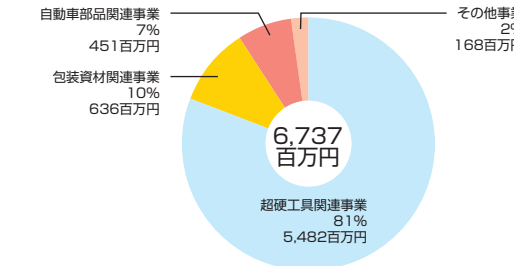


### 主要な経営指標の推移

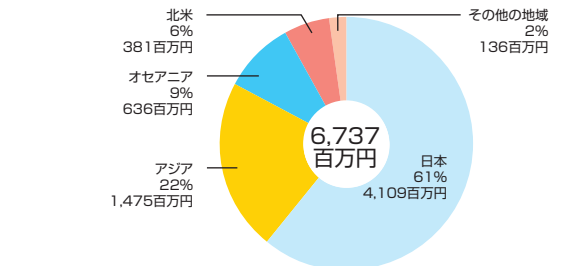
	第50期中間 平成19年3月1日から 平成19年8月31日まで	第51期中間 平成20年3月1日から 平成20年8月31日まで	第52期中間 平成21年3月1日から 平成21年8月31日まで	第53期中間 平成22年3月1日から 平成22年8月31日まで	第50期 平成19年3月1日から 平成20年2月29日まで	第51期 平成20年3月1日から 平成21年2月28日まで	第52期 平成21年3月1日から 平成22年2月28日まで
売上高 (百万円)	9,604	10,148	4,047	6,737	19,925	16,762	9,859
営業利益または営業損失(Δ) (百万円)	378	380	△1,348	△79	820	△73	△1,987
経常利益または経常損失(Δ) (百万円)	572	526	△1,205	77	1,182	21	△1,909
中間(当期)純利益または純損失(Δ) (百万円)	267	199	△1,327	△89	543	△1,184	△2,047
1株当たり中間(当期)純利益または純損失(Δ) (円)	13.47	10.09	△69.94	△4.73	27.41	△60.57	△108.05
純資産 (百万円)	17,116	16,325	12,170	11,061	16,813	12,898	11,453
自己資本比率 (%)	68.8	67.1	60.0	55.5	68.2	60.5	54.4
1株当たり純資産額 (円)	806.85	778.15	596.00	538.26	793.17	634.17	559.74
ROE(自己資本利益率) (%)	1.7	1.3	△11.77	△0.73	3.5	△9.8	△18.1



### 事業の種類別セグメント売上高



### 所在地別セグメント売上高



中間連結貸借対照表 (要旨)

単位:百万円

科目	期別		
	当中間期 平成22年8月31日現在	前中間期 平成21年8月31日現在	前期 平成22年2月28日現在
(資産の部)			
<b>流動資産</b>	<b>8,883</b>	<b>7,969</b>	<b>9,366</b>
現金及び預金	3,115	3,767	4,175
受取手形及び売掛金	3,705	2,383	3,265
たな卸資産	1,671	1,581	1,674
繰延税金資産	21	17	23
その他	382	233	251
貸倒引当金	△13	△14	△24
<b>固定資産</b>	<b>9,477</b>	<b>10,836</b>	<b>10,100</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,356</b>	<b>8,172</b>	<b>7,896</b>
建物及び構築物	2,481	2,670	2,663
機械装置及び運搬具	3,330	3,980	3,715
土地	1,324	1,339	1,356
その他	219	181	160
<b>無形固定資産</b>	<b>152</b>	<b>185</b>	<b>148</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,968</b>	<b>2,478</b>	<b>2,056</b>
投資有価証券	1,586	2,053	1,654
繰延税金資産	24	25	29
その他	386	433	400
貸倒引当金	△28	△33	△28
<b>資産合計</b>	<b>18,360</b>	<b>18,805</b>	<b>19,467</b>

科目	期別		
	当中間期 平成22年8月31日現在	前中間期 平成21年8月31日現在	前期 平成22年2月28日現在
(負債の部)			
<b>流動負債</b>	<b>2,911</b>	<b>2,860</b>	<b>3,302</b>
支払手形及び買掛金	962	601	1,158
短期借入金	600	1,300	750
一年内返済予定長期借入金	587	344	602
賞与引当金	64	75	33
その他	697	538	757
<b>固定負債</b>	<b>4,387</b>	<b>3,775</b>	<b>4,711</b>
長期借入金	2,350	1,777	2,636
退職給付引当金	1,791	1,674	1,804
繰延税金負債	30	-	42
その他	214	322	228
<b>負債合計</b>	<b>7,299</b>	<b>6,635</b>	<b>8,013</b>
(純資産の部)			
<b>株主資本</b>	<b>11,009</b>	<b>11,820</b>	<b>11,099</b>
資本金	2,882	2,882	2,882
資本剰余金	4,165	4,165	4,165
利益剰余金	4,694	5,504	4,784
自己株式	△732	△732	△732
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△823</b>	<b>△540</b>	<b>△506</b>
その他有価証券評価差額金	69	175	118
為替換算調整勘定	△892	△715	△625
<b>少数株主持分</b>	<b>876</b>	<b>890</b>	<b>860</b>
<b>純資産合計</b>	<b>11,061</b>	<b>12,170</b>	<b>11,453</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>18,360</b>	<b>18,805</b>	<b>19,467</b>

Point (資産の部)

前期末と比較して、金融機関への借入金の返済等により現金及び預金が10億5千9百万円、減価償却等により有形固定資産が5億3千9百万円、それぞれ減少いたしました。また、売上高の回復により受取手形及び売掛金が4億4千万円増加しております。

Point (負債及び純資産の部)

前期末と比較して、支払手形及び買掛金が1億9千5百万円、短期借入金1億5千万円、長期借入金2億8千5百万円、それぞれ減少いたしました。また、純資産は前期末と比較して、3億9千1百万円減少いたしました。

中間連結損益計算書 (要旨)

単位:百万円

科目	期別		
	当中間期 平成22年 3月1日から 平成22年 8月31日まで	前中間期 平成21年 3月1日から 平成21年 8月31日まで	前期 平成21年 3月1日から 平成22年 2月28日まで
<b>売上高</b>	<b>6,737</b>	<b>4,047</b>	<b>9,859</b>
売上原価	5,488	3,970	8,928
<b>売上総利益</b>	<b>1,248</b>	<b>77</b>	<b>931</b>
販売費及び一般管理費	1,327	1,426	2,919
<b>営業損失 (△)</b>	<b>△79</b>	<b>△1,348</b>	<b>△1,987</b>
営業外収益	245	236	332
営業外費用	89	92	254
<b>経常利益または経常損失 (△)</b>	<b>77</b>	<b>△1,205</b>	<b>△1,909</b>
特別利益	9	7	137
特別損失	42	22	89
<b>税金等調整前中間利益または中間(当期)純損失 (△)</b>	<b>44</b>	<b>△1,220</b>	<b>△1,861</b>
法人税、住民税及び事業税	64	59	159
法人税等調整額	14	35	26
少数株主利益	55	11	0
<b>中間(当期)純損失 (△)</b>	<b>△89</b>	<b>△1,327</b>	<b>△2,047</b>

Point (中間連結損益計算書)

生産・販売ともに回復の傾向を見せ、売上高は前中間期と比較して66.4%増の67億3千7百万円、営業損失は大幅改善となる7千9百万円となりました。また、受取利息が1千万円、持分法による投資利益が4千4百万円、デリバティブ評価益が7千4百万円とそれぞれ増加したことから、経常利益7千7百万円を計上いたしました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位:百万円

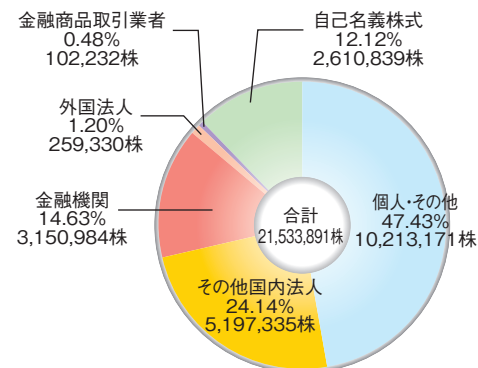
科目	期別		
	当中間期 平成22年 3月1日から 平成22年 8月31日まで	前中間期 平成21年 3月1日から 平成21年 8月31日まで	前期 平成21年 3月1日から 平成22年 2月28日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△302	781	305
投資活動による キャッシュ・フロー	△255	753	1,087
財務活動による キャッシュ・フロー	△422	32	557
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△79	117	142
現金及び現金同等物の 増加額または減少額(△)	△1,059	1,685	2,092
現金及び現金同等物の 期首残高	4,175	2,082	2,082
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	3,115	3,767	4,175

Point (中間連結キャッシュ・フロー計算書)

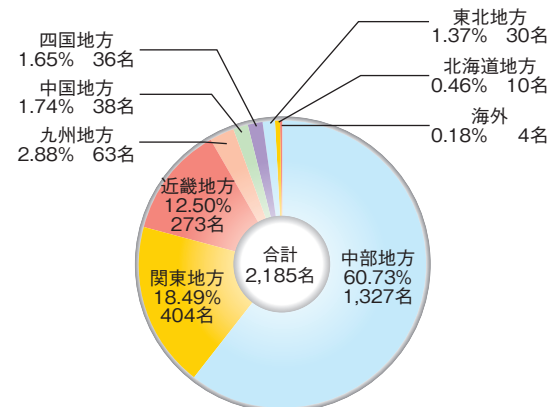
売上債権の増加、金融機関からの借入金返済による支出等により、当中間期で9億8千万円の資金を使用いたしました。その結果、前期末と比較して、当中間期の現金及び現金同等物の残高は10億5千9百万円減少し、31億1千5百万円となりました。

## 株式構成

〈所有者別株式分布状況〉



〈地域別株主分布状況〉

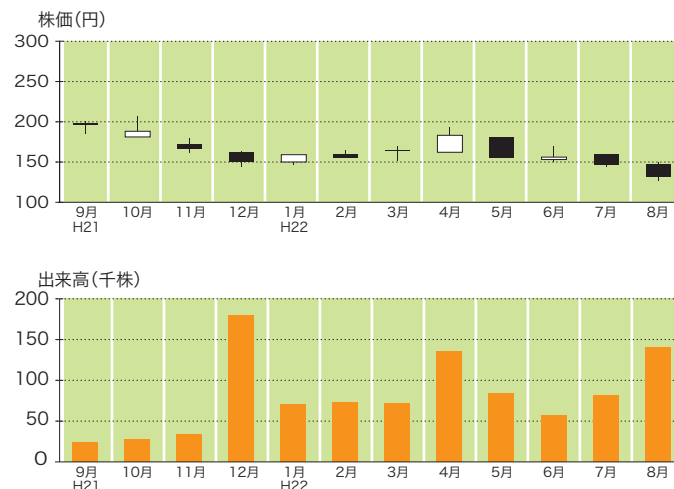


## 大株主（上位10名）

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
有限会社シーマックス	1,150,000	6.07
株式会社晃永	1,050,000	5.54
株式会社ナステック	1,004,000	5.30
森 誠	828,000	4.37
富士精工従業員持株会	708,378	3.74
株式会社大垣共立銀行	558,877	2.95
株式会社三菱東京UFJ銀行	461,041	2.43
森 仁志	405,000	2.14
三菱マテリアル株式会社	386,743	2.04
第一生命保険株式会社	313,000	1.65

（注）当社は、自己株式2,610,839株を保有しておりますが、上記上位10名の株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株価の推移



## 会社概要

商号 富士精工株式会社  
FUJI SEIKO LIMITED  
創立 昭和33年(1958年)3月  
本社 愛知県豊田市吉原町平子26番地  
資本金 28億8,201万円  
従業員数 連結 1,487名 単体 467名  
主要事業 超硬工具、ダイヤモンド工具、その他切削工具、  
工具保持具、治具、計測機械器具、  
自動車部品等の製造販売  
研削砥石等の販売

## 役員

取締役社長	森 誠
専務取締役	近藤 国夫
常務取締役	安藤 功
常務取締役	鈴木 龍城
取締役	片山 貴雄
常勤監査役	神谷 敏朗
監査役	菅 正英
監査役	下山田 隆信

（注）取締役片山貴雄氏は、社外取締役です。  
監査役菅正英氏、下山田隆信氏は、社外監査役です。

## 株主メモ

事業年度 3月1日～翌年2月末日  
定時株主総会 5月  
基準日 2月末日（定時株主総会・期末配当）  
その他必要ある場合はあらかじめ公告いたします。  
単元株式数 1,000株  
公告方法 当社公告につきましては、当社ホームページ（<http://www.c-max.co.jp/>）に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。  
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 名古屋市中区栄三丁目15番33号  
中央三井信託銀行株式会社  
名古屋支店 証券代行部  
電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）

上場金融商品取引所 名古屋証券取引所

### お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買い取り・買い増し等のお申し出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行にお申し出ください。
- 未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行にお申し出ください。
- 株主様のご住所・お名前に使用する文字について  
株券電子化実施にともない、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字につきましては、お取り引きの証券会社等にお問い合わせください。